



大分循環器病院は平成27年春に太平町に移転し、 新病院としてスタートします

大分循環器病院 院長

あき みつ ただ ふみ

秋満 忠郁

新年明けましておめでとうございます。

昨年のお世相を反映する「今年の漢字」として、京都の清水寺にて『輪』という字が選ばれました。2020年に開催が決まった東京五輪招致活動、プロ野球の東北楽天ゴールデンイーグルスの日本シリーズ初制覇に見られたチームワークの大切さや応援の輪、さらには台風26号による伊豆大島災害や台風30号によるフィリピン・レイテ島災害に対する日本各地及び世界各国からの支援の輪が広がったことなどが理由とされています。後述しますが、私自身も昨年は『輪』を強く感じた一年でした。地球上に人が住む限り地震や風水害といった自然災害は避けられないものと思いますが、今年は大きな自然災害や辛い出来事のない1年であって欲しいと願い、もし起こったとしてもそれを人の『輪』の力で克服し前に進んでいく人類であればと思います。



さて、本当に月日が経つのは早いもので、私も昨年で50歳となり、医師になって27年の歳月が過ぎました。そして昨年は50歳という自分の年齢をかなり意識しました。有名な孔子の論語の為政に『子曰、吾十有五而志乎学 三十而立 四十而不惑 五十而知天命 六十而耳順 七十而從心所欲、不踰矩』という言葉があります。人は50歳で自らの運命・宿命を知ることですが、勿論そういった境地には未だ及ばない未熟者ではあります。ただ、若い時から循環器診療、特に冠動脈インターベンション（カテーテル）治療に自分なりに一生懸命に取り組み、いつか大分に循環器の専門病院を作りたいという夢を持っていた自分を振り返り、また現在の当院の施設では患者さんに満足いく環境で医療を行えていないのではないかとずっと悩んでおり、さらにはこの先あと何年カテーテル治療の前線に立ってられるかということを見ると、残された時間はそれほど多くはなく、挑戦するなら“今でしょ”と感じておりました。そういった理由で、より充実した新しい病院を作ること

考えた一昨年でした。



太平町ふれあいサロンにお邪魔しました♪



もりさこ ひろみ
管理栄養士 森迫 浩美

昨年 12 月 17 日に行われた太平町ふれあいサロンにて『食事と健康』というテーマで講演を行いました。

まずは、毎日の食生活を振り返るために 12 個の質問について考えて頂きました。

そのうちの2つをご紹介します。



Q1 味つけは濃くありませんか？



醤油をポン酢に変えてみる、香辛料（カレー粉、山椒、黒胡椒など）使う、など減塩を心がけましょう。

Q2 揚げ物をたくさん食べていませんか？



家で揚げ物をあまりしない方も、買って食べたら同じことです。また、作りたてはおいしいのでついたくさん食べてしまうこともあります。油の取りすぎになりますので注意して下さい。

少々、耳の痛い質問もあったかと思いますが、難しく考えすぎるよりはたくさんの種類の食材を少しずつ“おいしく・楽しく”食べて頂きたいと思います。栄養指導をご希望の方は、一度主治医にご相談下さい。

お住まいの地区で栄養指導をご希望の方は当院までお知らせください。

担当：事務部 佐藤正一（内線 634）

肝炎コーディネーターのつぶやき その②

肝炎は放置していると肝硬変や肝癌を引き起こす病気です。しかし近年、インターフェロン治療などのめざましい進歩により、多くの患者さんのウイルス駆除が可能になりました。

肝炎ウイルスが陽性とわかっていても、放置している方はいませんか？治療には公費助成が利用できます。精密検査や治療を受けるため、是非病院を受診してください。肝炎の無料検査については、まず保健所へ相談を。病院での検査を希望される方は、保健所が受診券を交付してくれます（郵送可）。

40歳から5歳刻みの節目の方は、市町村の基本健診でも受けることができます。薬剤濫用、入れ墨、アートメイク、ピアスなどを行っている方はハイリスク群です。

是非一度検査を受けてください。

（肝炎コーディネーター 廣瀬 千明）



編集後記

院長先生の挨拶のなかにもありましたが、ついに当院も新病院へ移転することとなりました。一職員としては、建物が新しくなるということだけで、わくわくしちゃいますが、よりいっそうのサービス・質の向上を目指して地域医療に貢献していきたいと思っております。

・・・これで長いエレベーターの待ち時間にさよならです\(\ge\le\)/

医療法人 愛寿会
大分循環器病院
Oita Cardiovascular Hospital

〒870-0036 大分市寿町27番1
TEL 097-532-1111(代表)
ホームページ: <http://www.oita-junkanki.jp/>



しかしながら、国の医療費抑制政策や医師・看護師不足など現在の医療を取り巻く環境は非常に厳しく、申すまでもなく私どものような小さな民間病院は経営的にとても厳しい状況にあります。したがって、私の思いを実現するためには現実問題として、土地の取得・融資の問題、等々多くのハードルを越える必要がありました。それがこうして今回新病院の建設という事業（昨年11月に着工しています）が実現できるのも、私の夢の実現に関わって下さった多くの方々（病院を作るならと言って土地を売ってくれた地主さん、何の資産もない私どもの病院に融資を決めてくれた銀行、良い病院を作るんだと商売気を捨てて意気込んで下さる設計会社や建設会社、等）のご支援の『輪』の賜物だと思います。この場を借りて関係各位の皆様には改めて心より御礼申し上げます。



新病院においては患者様にも職員にも快適な環境を提供したいと考えております。また心臓カテーテル室の増設、心臓血管外科の手術に対応できる手術室の増設、透析室の拡張、リハビリ施設の充実、等を行い、より充実した医療が行える病院にしたいと思っておりますので、皆様方には新病院の完成を是非楽しみにして頂ければと存じます。

申すまでもなく、病院にとって一番の資源は建物や設備ではなく“人”であります。私をはじめ病院の職員一同まだまだ至らない面が多々あるとは思いますが、より良い医療を提供したい・より良い病院を作りたいという気持ちは誰にも負けないつもりですので、皆様方には今後も当院を厳しくご指導いただき、また暖かくご支援いただければと存じます。

最後になりましたが、今年一年が、皆様にとりまして良い年になりますようご祈念申し上げます。



新病院完成予想図

リハビリテーション室紹介

私たちスタッフは、理学療法士 3 名、あんまマッサージ・指圧師 2 名、看護助手 1 名で構成されています。対象疾患は主に循環器科疾患、整形外科疾患、消化器疾患、糖尿病などで、入院・外来患者様のリハビリテーションを行っています。

理学療法士は医学的リハビリテーションとして、医師の指示のもと訓練を行っております。リハビリテーションの目標は、痛みを軽減する、ご家庭に戻る、お仕事に復帰する、またスポーツができるようになるなど患者様によって様々ですが、その人らしい生活ができるようにサポートさせて頂いております。また、退院前にリハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーが、患者様のご自宅に伺い、実際の生活ぶりを見せて頂き、場合によっては環境などを調整させて頂く場合もあります。

マッサージは予約制となっており、主に肩凝り・腰痛などの慢性疼痛でお悩みの方々が来室されています。

看護助手は、主に電気治療や温熱機器等、機器によるリハビリを調整しております。今後も患者様が気持ちよくリハビリを受けることができるようスタッフ一同頑張りますので、よろしくお願い致します。

(文責：石甲斐 耕介)



職員旅行に行ってきました



本場讃岐のうどん学校で手打ちうどんを堪能しました



湯布院温泉でのんびり♪ 内田医師は自転車に参加!!



阿波踊りも鑑賞&体験できました☆ (愛媛～香川～徳島の旅)



姫島散策コースもありました

